

# SBIグループCEO・北尾吉孝の野望

平成17年7月5日発行(隔週火曜日発売) 第40巻第13号(通巻802号) 昭和45年9月3日第3種郵便物出

経済の新しい風

2005 JULY

7.5

No.802

定価 600yen

# 経済界

ソフトバンク、  
インベストメント  
Omni  
北尾吉孝

●特集

## SBIグループCEO 北尾吉孝の野望

★独占90分「顧客中心主義でSBIグループ時価総額を5年で5倍の5兆円にする」

●レポート

「家庭用ゲーム機はいらぬ」任天堂・岩田聡社長の大きな“賭け”  
に危機感を強める

インデックスは携帯向けコンテンツ界で“主役”を取れるか

“2万店構想”を推進するファミリーマートの次の一手

「うちの得意技“ギョウ市場”を生かし、成長路線復活へ」青井浩丸井社長





「中原さんは単に歯を治すのではなく、『予防』と『未病』の部分に注力されています」（島田）

う。それならば、自分が思い描く理想的な形で患者と向き合いたいと考えた末の中原の決断だった。

こんな中原の「根っこ」の部分は、幼少の時にまでさかのぼる。

父は山口県大島で歯科医を開業していた。大島は瀬戸内海の西端にある大きな島で、島内には数軒の歯科医があったが、その頃は朝の5時、6時から患者が並んで待つ時代で、父は夜の9時ごろまで働きづめの日々を送っていた。母は専業主婦だったが、歯科衛生士がいなくて手伝いをし、毎月1週間くらいはレセプト作成にかりつきりになった。このため中原は幼稚園の頃から診療室や技工室が遊び場になった。石膏を練っているいろいろなケースに流し込んで

り、時にはレントゲン室のボタンを操作したりして怒られることもあったという。

## ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●● 米國で審美に開眼

「私も歯科医になろうと思ったのは5歳のときです。小学校の卒業文集に『将来は歯医者になつていろいろ研究してみたい』と書いたのを覚えています」

日本歯科大学に進んだ中原だったが、歯学部6年間はダイビングやワングルなどのスポーツと遊びに明け暮れた。卒業後、1年間かけてアメリカのタフツ大学歯学部を基点に、ボストン大学、テキサス大学、ペンシルバニア大学、UCLAを歴訪し、当時まだ体系化されていなかった審美歯科とそのマーケティングを学ぶ傍ら、Kaji Associates Studio（ボストン美術館大学教授主宰）で美学を学び、医学との融合を模索する。「タフツ大学のホワイト教授に就いたことが、私の審美歯科への開眼です。今考えると無謀で

すが、私は無資格で医局に出入りもすれば、大学院の講義も受けられるという自由気ままな立場でした。これもひとえにホワイト教授夫妻が配慮してくださった賜物。私は教授の推薦状を手に、全米を飛び回りました。日本に帰国する際、ホワイト教授から『君のために枠を取ったからマスターコースを取っていきなさい』と勧められました。自分の本当の師匠は一人ひとりの患者さんだと思い、日本で一日も早く最新の歯科医療を始めた

ようやく軌道に乗りつつある中で、今また中原は新たな取り組みを模索している。

と思つて日本に戻りました」

かねてから世界中の医療のスペシャリストを招き、医師やスタッフの研修や教育を行ってきた。

試行錯誤の末に、帝国ホテル内に開業して1年半が過ぎた。

また政府の構造改革特区に関する有識者会議に研修目的の外国人歯科医の国内診療拡大を提案、復活候補に挙がっている。

デュボワとはフランス語で森を意味する。森が持つヒーリングや自然治癒力に託した中原が描く美容歯科の世界は、まさに

「21世紀の未来型」と言えよう。（文中敬称略）

### ●COMPANY PROFILE●

[クリニック デュボワ]

診療科目●一般・予防・審美・矯正・小児歯科、歯科口腔外科。計画診療による自由診療

### ●PERSONAL DATA●

[中原悦夫（なかはら・えつお）]  
1959年山口県生まれ。84年日本歯科大学卒業。87年米國タフツ大学を基点にボストン大、テキサス大、ペンシルバニア大、UCLAを歴訪、審美歯科学およびそのマーケティングを学ぶ。89年審美歯科および予防歯科の専門クリニック「協立歯科」を設立し、審美歯科とオーラルヘルスケアの普及を始める。93年アメリカ美容歯科学会で日本人初の認定会員となる。2003年帝國ホテルプラザにてホテルのホスピタリティとホスピタルのヘルスケアの融合を目指し「医療法人社団 協立歯科 クリニック デュボワ」を開業。